

Red Hat 日本語スタイルガイド



目次

- [第 1 章 はじめに](#) on page 3
 - [1.1. 本書の目的](#) on page 3
 - [1.2. 対象読者](#) on page 4
 - [1.3. 適用範囲](#) on page 4
 - [1.4. フィードバック](#) on page 4
- [第 2 章 文体](#) on page 4
 - [2.1. 本文](#) on page 4
 - [2.2. 見出し](#) on page 4
 - [2.3. 箇条書き](#) on page 5
 - [2.4. 図表内のテキスト](#) on page 5
 - [2.5. 図表のキャプション](#) on page 5
 - [2.6. 用語集](#) on page 5
- [第 3 章 文字の表記と使い分け](#) on page 5
 - [3.1. ひらがな](#) on page 5
 - [3.2. 漢字](#) on page 5
 - [3.3. 漢字の送りがな](#) on page 6
 - [3.4. 複合語の送りがな](#) on page 6
 - [3.5. ひらがなと漢字の使い分け](#) on page 6
 - [3.6. カタカナ](#) on page 6
 - [3.7. カタカナの長音](#) on page 6
 - [3.8. 算用数字](#) on page 7
 - [3.9. 算用数字と漢数字の使い分け](#) on page 7
 - [3.10. アルファベット](#) on page 7
 - [3.11. 一部の助数詞](#) on page 7
- [第 4 章 文字間のスペース](#) on page 8
 - [4.1. 全般](#) on page 8
 - [4.2. カタカナ複合語](#) on page 9
 - [4.3. かっこ類と隣接する文字の間のスペース](#) on page 9
- [第 5 章 記号の表記](#) on page 10
 - [5.1. 全角記号と半角記号の使い分け](#) on page 10

- [5.2. 句読点](#) on page 10
 - [5.2.1. 句点 \(。\)](#) on page 10
 - [5.2.2. 読点 \(、\)](#) on page 10
- [5.3. 記号](#) on page 10
 - [5.3.1. 感嘆符 \(!\)](#) on page 10
 - [5.3.2. 疑問符 \(?\)](#) on page 11
 - [5.3.3. スラッシュ \(/\)](#) on page 11
 - [5.3.4. 中黒 \(・\)](#) on page 12
 - [5.3.5. 波線 \(~\)](#) on page 12
 - [5.3.6. ハイフン \(-\)](#) on page 12
 - [5.3.7. コロン \(:\)](#) on page 12
 - [5.3.8. セミコロン \(;\)](#) on page 13
 - [5.3.9. ダッシュ \(—\)、\(一\)、\(#\)、\(ー\)](#) on page 13
 - [5.3.10. コンマ \(,\)](#) on page 14
 - [5.3.11. ピリオド \(.\)](#) on page 14
 - [5.3.12. アンパサンド \(&\)](#) on page 14
 - [5.3.13. 正符号 \(+\)](#) on page 14
- [5.4. カッコ](#) on page 15
 - [5.4.1. 丸カッコ \(\)](#) on page 15
 - [5.4.2. 大カッコ \[\]](#) on page 15
 - [5.4.3. 中カッコ { }](#) on page 15
 - [5.4.4. かぎカッコ 「 」](#) on page 15
 - [5.4.5. 二重かぎカッコ 『 』](#) on page 15
 - [5.4.6. 山カッコ < >](#) on page 15
 - [5.4.7. 二重引用符 " "](#) on page 16
 - [5.4.8. 一重引用符 ' '](#) on page 16
- [第 6 章 単位の表記](#) on page 16
 - [6.1. 全般](#) on page 16
 - [6.2. 個別の単位](#) on page 16
 - [6.2.1. 時間](#) on page 16
 - [6.2.2. 長さ](#) on page 17
 - [6.2.3. 質量](#) on page 17
 - [6.2.4. 面積、体積](#) on page 17
 - [6.2.5. 記憶容量](#) on page 17
 - [6.2.6. 割合](#) on page 17
 - [6.2.7. 通貨](#) on page 17
 - [6.2.8. その他](#) on page 17
- [第 7 章 わかりやすい文章を書くためのヒント](#) on page 18
 - [7.1. 句読点の使い方](#) on page 18
 - [7.2. 敬語の使い方](#) on page 18
 - [7.3. 命令文の使い方](#) on page 18
 - [7.4. 回避すべき表現](#) on page 18
 - [7.5. 主語についての指定](#) on page 19

- [7.6. 能動態と受動態の使い方](#) on page 19
- [第 8 章 特別な表現](#) on page 19
 - [8.1. コンピューターなどの画面用語](#) on page 19
 - [8.1.1. 単一の画面用語](#) on page 19
 - [8.1.2. 連続する複数の画面用語](#) on page 20
 - [8.2. キーボードのキーの表記](#) on page 20
 - [8.2.1. 単一のキー](#) on page 20
 - [8.2.2. 連続操作のキー](#) on page 20
 - [8.2.3. 同時操作のキー](#) on page 20
 - [8.2.4. 矢印キー](#) on page 20
 - [8.3. 参照の表記](#) on page 21
 - [8.4. 資料タイトル](#) on page 21
- [第 9 章 特別な注意を要する事項](#) on page 21
 - [9.1. 商標](#) on page 21
 - [9.2. 製品、サービス名およびブランド名](#) on page 22
 - [9.3. コピーライト表示](#) on page 22
 - [9.4. 会社名](#) on page 22
- [第 10 章 参考資料](#) on page 22
- [改訂履歴](#) on page 23

第 1 章 はじめに

1.1. 本書の目的

本スタイルガイドは、技術的な情報を読者にわかりやすく提供し、スタイルを統一して読みやすくするよう翻訳者を支援するために作成されました。

本書は基本的に Red Hat の製品およびサービスに関する文書の翻訳を対象としており、翻訳において日本語表記を統一するためにご利用いただけます。

翻訳する文書の読者層は、専門知識を持つ上級ユーザーから一般ユーザーにまで及び、ユーザーのスキルは多岐にわたります。

Red Hat の文書を翻訳する際には、以下の点に留意してください。

- * 正確で統一されている (Accurate and consistent)
- * 読みやすい (Readable)
- * わかりやすい (Comprehensible)
- * ユーザーの立場に立っている (User focused)

1.2. 対象読者

Red Hat の技術翻訳に携わる翻訳およびレビュー担当者。

1.3. 適用範囲

Red Hat で作成される技術文書の日本語翻訳に適用されます。

1.4. フィードバック

誤字、脱字を発見された場合、もしくは内容を改善するためのご意見、ご提案がございましたら、Red Hat 日本語スタイルガイド委員会 (jp-style-guide@redhat.com) までメールでご連絡いただくようお願いします。本書を改善するためのご意見、ご提案をお寄せいただく場合には、可能な限り具体的に説明してください。また、エラーを発見された場合は、対象箇所を容易に見つけることができるように、そのセクション番号と該当部分の前後の文章も含めてご報告いただくようお願いします。

第 2 章 文体

2.1. 本文

敬体 (です/ます調)

文体は、特に指定がない限り、敬体文 (です/ます調) にします。

2.2. 見出し

体言止め (名詞句) が原則

見出しは、特に指定がない限り、体言止め/名詞句にします。体言止め/名詞句にすることに無理がある場合は、常体/動詞句 (である調) にします。

例

Creating Virtual Machines
仮想マシンの作成

注記: 「xx を yy」の形式よりも「xx の yy」を推奨します。

2.3. 箇条書き

和文の本文に使われている文体に合わせる (基本的に敬体)

箇条書きは特に指定がない限り、和文の本文に使用されている文体に合わせます (基本的に敬体)。ただし、文脈に応じて常体または体言止めにもできます。

2.4. 図表内のテキスト

常体または体言止め

表内および図表内のテキストの文体は特に指定がない限り、常体または体言止めになります。ただし、敬体を使用することもできます。

2.5. 図表のキャプション

基本的には体言止め。説明文の場合は敬体も使用可。

図表のキャプションは特に指定がない限り、基本的に体言止めになります。ただし、説明文の場合は敬体を使用することもできます。

2.6. 用語集

見出し語は名詞または体言止め。本文は敬体。

用語集の見出し語は指定がない限り、名詞または体言止めにし、本文は敬体になります。

第 3 章 文字の表記と使い分け

3.1. ひらがな

ひらがなの使用は「現代仮名遣い」(昭和 61 年 7 月 1 日内閣告知第 1 号) に準じます。

3.2. 漢字

漢字の使用は「常用漢字表」(平成22年内閣告示第2号) に準じます。

例外として、常用漢字以外の漢字を使ったほうがわかりやすい語は使用します。

例

梱包、楕円、筐体

3.3. 漢字の送りかな

原則として、昭和 48 年 6 月 18 日内閣告知第 2 号「送り仮名の付け方」に従います。

例: 行う、表す、変わる

3.4. 複合語の送りかな

原則として、昭和 48 年 6 月 18 日内閣告知第 2 号「送り仮名の付け方」に従います。

例: 読み取る、書き込む、申し込む、組み合わせる、割り当てる

3.5. ひらがなと漢字の使い分け

名詞、動詞、形容詞は常用漢字表に従いますが、指示代名詞(こそあど)、接続詞、助詞、助動詞、接頭語、接尾語、副詞などにはひらがなを使用します。

ひらがなを使用する例

および、または、ならびに、もしくは、あるいは
これ、それ、あれ、どれ
「ご参照ください」の「ご」
すでに、たとえば

3.6. カタカナ

カタカナは全角文字で表記し、平成 3 年 6 月 28 日 内閣告示第 2 号「[外来語の表記](#)」に従います。

ただし、長音の表記については、「カタカナの長音」を参考にしてください。

3.7. カタカナの長音

原則として、語尾の長音は省略しません。ただし、製品によって長音の使用を省略する場合があります。英語の語尾の -er、-or、-ar、-y などにあたるものは、原則として長音記号「ー」(U+30FC) で表します。

画面用語 (グラフィカルユーザーインターフェースのメニュー項目、ボタン名、アイコンおよびメッセージ) については、上記の原則が適用されていないものもあるため、実際の画面を確認の上、画面上の表記に合わせます。

原則に従う例 (正)	(誤)
メニュー	メニユ
ユーザー	ユーザ
サーバー	サーバ
アーキテクチャー	アーキテクチャ
サードパーティー	サードパーティ

3.8. 算用数字

半角で表記し、前後には半角スペースを入れます。

位取りにはコンマを使用します。コンマで桁を区切る際には、原則として原文の区切り方に従い、小数点にはピリオドを使用します。

3.9. 算用数字と漢数字の使い分け

数量を表す基数詞および順番を表す序数詞には算用数字を使用し、熟語には漢数字を使用します。

例
プロセッサ 2 基
第 1 回
四捨五入
一部
一定
1 つ (「ひとつ」または「一つ」としない)

3.10. アルファベット

アルファベットには半角文字を使用します。

3.11. 一部の助数詞

数字に付く助数詞 (か、カ、カ、ケ) の表記は、大文字のカタカナ「カ」を使用します。

例

5 カ所、3 カ月

第 4 章 文字間のスペース

4.1. 全般

全角文字と半角文字の間には、半角スペースを入れます。

全角文字同士の間にはスペースを入れません。

半角文字と半角文字の間には、原文と同様に単語の区切りにスペースを入れます。

斜体で表示されている文字列の前後には、原則として半角スペースを入れます。ただし、直前が斜体で表示される文字でも文字が重ならない句読点(、。)やかぎカッコ(「」『』)の場合はスペースを入れません。

全角文字と半角文字間にスペースを入れない例外ケースと、全角文字間にスペースを入れる例外ケースは以下のとおりです。

全角文字と半角文字間にスペースを入れない例外ケース	全角文字間にスペースを入れる例外ケース
<ul style="list-style-type: none"> 句読点(、。)と隣接する半角文字の間 値と角度の単位記号(°)の間 かっこの内側 スラッシュ(/)と隣接する文字の間 疑問符(?)や感嘆符(!)と、その前の全角文字との間 アクセスキーを示す文字を囲むかっことその直前の文字の間 コロン(:)とその直前の文字の間 	<ul style="list-style-type: none"> 斜体の文字列の前後 (翻訳された全角文字の)画面用語の前後

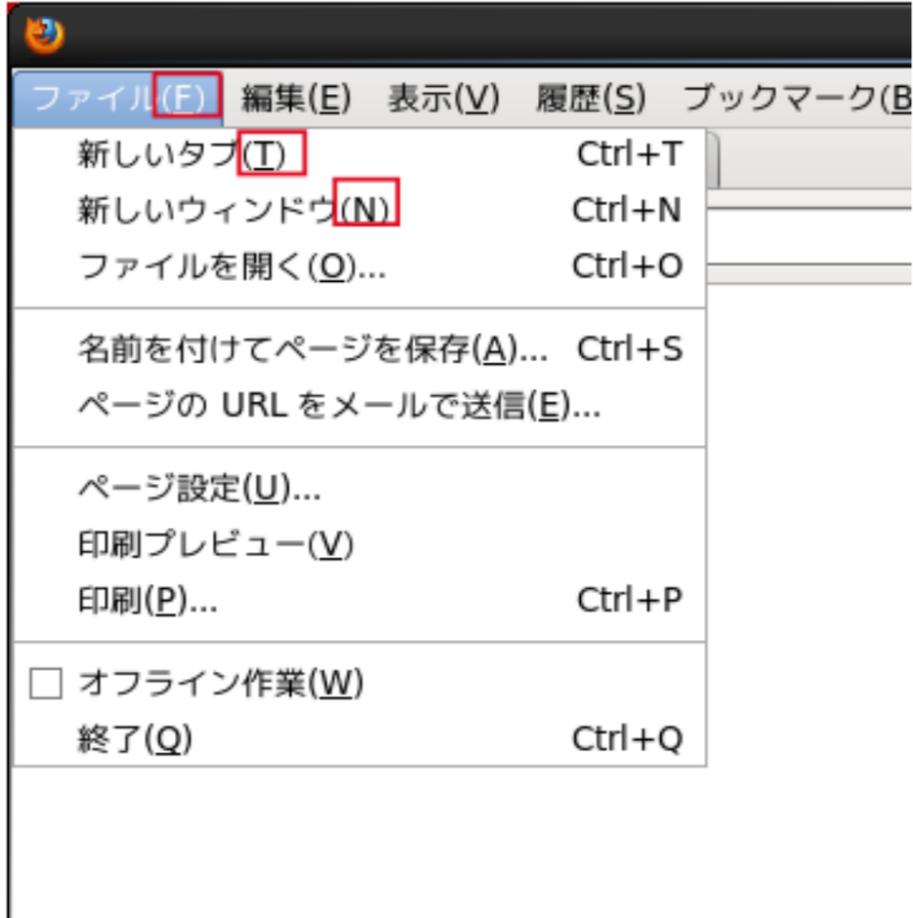


図: 「アクセスキーを示す文字を囲むかっこ」の例

4.2. カタカナ複合語

2つ以上のカタカナの語からなる複合語は、原則として中黒や半角スペースで区切りません。

例: グラフィカルユーザーインターフェース

ただし、他社製品の正式名称などで中黒や半角スペースが使用されている場合にはそのままにします

4.3. かっこ類と隣接する文字の間のスペース

半角かっこの外側のみに半角スペースを挿入し、内側には挿入しません。

第 5 章 記号の表記

5.1. 全角記号と半角記号の使い分け

原則として、日本語に固有の句読点、かっこおよび各種の記号は全角で表記し、それ以外の記号は半角で表記します。

全角を使用するもの	半角を使用するもの
句読点、かぎかっこ「」『』、中黒	左記以外 例: () { } < >

5.2. 句読点

5.2.1. 句点 (。)

全角の「。」を使用します。

5.2.2. 読点 (、)

全角の「、」を使用します。

5.3. 記号

5.3.1. 感嘆符 (!)

半角を使用します。

原文の文末が「!」の場合、原則として和文では感嘆符を使用しません。

以下のケースは例外として感嘆符を使用します。

感嘆符を使用する例外ケース	例
<ul style="list-style-type: none"> 引用された原文やコードなどに出てくる場合 ソフトウェアのメッセージに出てくる場合 マーケティング向けの文書に出てくる場合 	<p>追加のパラメーター <code>cio_ignore=all,!0.0.0009</code> も含まれています。</p> <p>パスワードが一致しません!</p> <p>注意!</p>

5.3.2. 疑問符 (?)

半角を使用します。

原文の文末が「?」の場合、原則として和文では疑問符を使用しません。

例:

What are Kickstart Installations?

キックスタートインストールとは

ただし、以下のケースは例外として疑問符を使用します。

疑問符を使用する例外ケース	例
<ul style="list-style-type: none"> 引用された原文やコードなどに出てくる場合 ソフトウェアのメッセージに出てくる場合 マーケティング向けの文書に出てくる場合 FAQ などで使用する場合 	<pre><csv:reader fields="lastname?trim.capitalize,country?upper_case" /></pre> <p>のようにフィールド名の後に定義し、</p> <p>2つの関数を疑問符で区切ります。</p> <p>曖昧なオプション: <code>%s (%s?)</code></p> <p>本当に終了してよいですか?</p> <p>ご存知でしたか?</p> <p>パスワードを忘れた場合、どうすればいいですか?</p>

5.3.3. スラッシュ (/)

半角を使用します。

原文で使用されている場合や「または」の意味で語句を並列させる場合に使用します。

例: TCP/IP、I/O、登録/変更/削除

注記: 「A and/or B」に対する「および/または」の使用は推奨しません

5.3.4. 中黒 (・)

原則として使用しません。ただし、例外として、外国の人名や固有名詞などで正式名称として使用されている場合には、全角の中黒を使用することができます。半角の中黒は文字化けする可能性があるので使用しないでください。

例外ケース (正式名称として使用されている国名)

Saint Vincent and the Grenadines
セントビンセント・グレナディーン

5.3.5. 波線 (～)

文字化けする可能性があるため、原則的に使用しません。

英語の記号チルダ「~」と混同しないように注意してください。波線「~」は数値の範囲を表す際に使用されますが、この場合はハイフンに置き換えてください。

例: ポート番号は 1024 - 5000 の範囲で指定します。

5.3.6. ハイフン (-)

半角のハイフンマイナス「-」(U+002D)を使用します。

数字の範囲を表す場合の波線「~」、ダッシュ(「—」(U+2014)、「-」(U+2015)、「#」(U+2012)、
「-」(U+2013))およびマイナス(「#」(U+2212)、「-」(U+FF0D))の代わりとして使用します。

前後には半角スペースを挿入します。

例: 50 - 100 Mbps

5.3.7. コロン (:)

半角を使用します。

コロンの前にはスペースを入れず、後ろには半角スペースを入れます。

原文の文末にコロンが付いている場合、原則として和文では句点に置き換えます。例外として、ソフトウェアのメッセージ翻訳において、文末のコロン(:)の後ろにどのような単語や文が続くかが翻訳時に不明な場合は、コロンを文末に付けることができます。

コロンを付けない例

Run the following command:
以下のコマンドを実行します。

コロンを付ける例

Error while executing action: {0}
アクションを実行中にエラーが発生しました: {0}

Last scan: {0}
前回のスキャン: {0}

原文の文中にコロンがあり、以下のように見出し語とその説明の区切りとして使用されている場合には、半角のコロンを使用します。

対応する値を示す場合:

例

Capacity: 2 GB
容量: 2 ギガバイト

簡単に場合分けなどを示す場合:

例

A server group includes the following mandatory attributes:
name: the name of the server group
profile: the name of the profile for the server group

サーバーグループに含まれる必須の属性は次のとおりです。
name: サーバーグループの名前。
profile: サーバーグループのプロファイル名。

5.3.8. セミコロン (;)

原則として和文では使用しません。

5.3.9. ダッシュ (—)、(—)、(—)、(—)

ダッシュ (「—」(U+2014)、「—」(U+2015)、「#」(U+2012)、「-」(U+2013)) は、和文では文字化けする可能性があるため、原則として使用しません。

ダッシュが数値の範囲を表すために使われている場合は、ハイフンに置き換えます。見出しとその説明をつなぐ記号としてコロンと同じ意味で使われている場合は、「コロン+半角スペース」に置き換えます。説明がダッシュのペアで囲まれている場合には、かっこに置き換えます。

例:

500–1000 bytes

500 - 1000 バイト

ssl — Activates SSL encryption.

ssl: SSL 暗号化をアクティベートします。

There are two types of identity providers — LDAP and proxy —three types of authentication providers — LDAP, Kerberos, and proxy.

アイデンティティプロバイダーには 2 つのタイプ (LDAP またはプロキシー)、認証プロバイダーには 3 つのタイプ (LDAP、Kerberos、プロキシー) があります。

注記: ダッシュと字形が似ているマイナス記号 (「#」 (U+2212)、 「-」 (U+FF0D)) についても、上記と同じ理由で、原則として使用しません。

5.3.10. コンマ (,)

半角を使用します。

和文では原則的に使用しません。ただし、原文やコードなどをそのまま記載する場合や、数値の位取りに使用する場合に使用します。

名詞の列記は、コンマではなく読点 (、) で区切ります。

5.3.11. ピリオド (.)

半角を使用します。

和文では原則的に使用しません。ただし、原文やコードなどをそのまま記載する場合や、小数点として使用する場合に使用します。

5.3.12. アンパサンド (&)

半角を使用します。

和文では原則的に使用しません。「and」の意味で使われている場合には「と」や「および」に置き換えます。固有名詞として使用されている場合や、原文やコードなどをそのまま記載する場合は使用します。

5.3.13. 正符号 (+)

半角を使用します。

複数のキーを同時に押す操作を表す場合に使用します。

5.4. カッコ

5.4.1. 丸カッコ ()

半角を使用します。

かっこの外側には半角スペースを入れますが、内側には入れません。

5.4.2. 大カッコ []

半角を使用します。

5.4.3. 中カッコ { }

半角を使用します。

和文では原則的に使用しません。コードや数式などをそのまま記載する場合は使用します。

5.4.4. かぎカッコ 「 」

全角を使用します。

章見出しや図表のキャプションに使用します。

注記: 原則として、書名および作品名 (マニュアル名を含む) には二重かぎかっこを使い、これ以外のケース (章見出し、図表のキャプションなど) には一重かぎかっこを使います。

一重かぎかっこを自動挿入するタグが付いている場合は不要です。

5.4.5. 二重かぎかっこ 『 』

全角を使用します。

書名および作品名 (マニュアル名を含む) に使用します。

二重かぎかっこを自動挿入するタグが付いている場合は不要です。

5.4.6. 山カッコ < >

和文では原則的に使用しません。ただし、原文やコードなどをそのまま記載する場合は使用します。

5.4.7. 二重引用符 " "

半角を使用します。

原文では、語句の強調や引用に二重引用符 (") を使用しますが、和文では強調や引用符として使われる場合は原則としてかぎカッコに置き換えるものとし、判断のつかない場合は原文どおりに二重引用符を使用します。ただし、コマンド、データ、プログラム、16 進表記など、原文のまま使用することに意味があるものは原文どおり引用符 (' ', " ") を使用するものとします。

例: (global-set-key "\eOd": backward-word) と記述します。

5.4.8. 一重引用符 ' '

半角を使用します。

会話や語句を引用する場合に使用することができますが、和文では通常多用しません。ただし、原文どおりに使用する必要がある場合には一重引用符をそのまま使用します。

例: \$ echo '\$DATE'

第 6 章 単位の表記

6.1. 全般

原則として、原文どおりに表記します。

数値と単位の間には半角スペースを入れます (原文中でスペースの有無が混在している場合でも、和文では原則として半角スペースを入れます)。例外として、「%」および「°C」の前にはスペースを入れません。

例: 10 GB、10°C

6.2. 個別の単位

6.2.1. 時間

「秒」、「分」、「時間」で表記します。

例: 1 時間 23 分

6.2.2. 長さ

「mm」、「cm」、「m」、「km」、「インチ」で表記します。

例: 3.5 インチフロッピーディスク、1 cm

6.2.3. 質量

「mg」、「g」、「kg」、「t」で表記します。

例: 20 g

6.2.4. 面積、体積

英語またはカタカナを使用します。

例: m²、平方メートル

6.2.5. 記憶容量

カタカナまたはアルファベットを使用します。

例: メガバイト、MB、キロバイト、KB

6.2.6. 割合

記号 (半角の %) を使用し、数値と記号の間に半角スペースを入れません。

例: 100%

6.2.7. 通貨

カタカナ、記号、アルファベットを使用します。

例: 10 豪ドル、1000 円、\$20、1 USD

注記: 円記号は、文字化けおよびバックスラッシュ「\」(U+005C) との混同を避けるため、半角の円記号「」(U+00A5) は使用せず、全角の円記号「¥」(U+FFE5) を使用して下さい。

6.2.8. その他

転送速度/通信容量の表記には、アルファベットまたはカタカナと時間単位の組み合わせを使用します。

例: bps、ビット/秒、Mbps、メガビット/秒、MB/s、メガバイト/秒

第 7 章 わかりやすい文章を書くためのヒント

7.1. 句読点の使い方

全角の「、」と「。」を使用します。

3つ以上の語句を併記する場合、「および」や「または」などの並列接続詞の直前には読点を打ちます。

例: デバイスのアドレス、ユーザー名、およびパスワードを入力します。

7.2. 敬語の使い方

丁寧語を使用します。尊敬語および謙譲語は基本的には使用しませんが、お客様を主体とする文では使用した方がよい場合があります。

例: 「本ガイドをご利用いただくにあたり、次の環境が必要となります。」

7.3. 命令文の使い方

原文の命令文を敬体の文章に訳すには、原則として「～します。」や「～してください。」と表現します。

7.4. 回避すべき表現

回避すべき表現には、以下が含まれます。

- 二重否定
- 重複表現
- あいまいな表現

例:

X 「更新されていないサーバーがない場合は」

X 「一番最近」、「過半数を超える」

X 「かもしれません」→「の場合があります」

注記: あいまいな表現については誤解を招かない範囲での使用に限定するものとします。

7.5. 主語についての指定

無生物はなるべく主語としないようにしてください。

例: 「このコマンドは、すべてのファイルを削除します。」 → 「このコマンドにより、すべてのファイルが削除されます。」

7.6. 能動態と受動態の使い方

原則として、ユーザーによる動作/操作は能動態を使用し、無生物による動作/操作は受動態を使用します。ただし、無生物の場合でも単刀直入の方がわかりやすい場合には能動態を使う場合もあります。

第 8 章 特別な表現

8.1. コンピューターなどの画面用語

8.1.1. 単一の画面用語

画面用語 (グラフィカルユーザーインターフェースのメニュー項目、ボタン名、アイコンおよびメッセージ) の前後には半角スペースを入れます (全角文字 + 全角文字の場合も同様です)。

Red Hat の製品マニュアルの場合、画面用語はタグで囲まれ、自動的に太字/可変幅で表示されるため、かっこで囲む必要はありません。

注記: 画面用語が日本語化されている場合には、実際の GUI を確認した上で、その訳を採用します。スクリーンショットが英語になっている場合などは、必要に応じて英語をかっこ内で併記します。

例: 設定 (Preferences)

画面用語が日本語化されていない場合には、英語のままとします。英語だけではユーザーにわかりにくい場合などは、必要に応じて日本語を併記します。

例: Preferences (設定)

画面用語の訳語については、翻訳ファイルの場所がわかっている場合には、ファイルから検索して調べることもできます。ただし、同一のストリングでも用途によって異なる訳が使用されている場合があることに注意してください。

8.1.2. 連続する複数の画面用語

Red Hat の製品マニュアルの場合には、<menuchoice> というタグで複数項目が囲まれて項目間には自動的に矢印が挿入され、各項目は太字/可変幅で表示されるので、翻訳者側で変更する必要はありません。

例: メインメニューバーから アプリケーション → システムツール → 端末 の順で選択します。

8.2. キーボードのキーの表記

8.2.1. 単一のキー

実際のキーボードの表示に合わせます。

例: Shift キー、Tab キー、Enter キー、Alt キー。

表示のない space key/bar は「スペースキー/バー」とし、arrow は「矢印キー」と表記します。

8.2.2. 連続操作のキー

原文によって、最初のキーを押し続ける必要がない場合には「~キーを押してから...」とし、押した状態で次のキーを押す必要がある場合には「~キーを押しながら...」とします。

8.2.3. 同時操作のキー

Red Hat の製品マニュアルの場合には、<keycombo> というタグで複数のキーが囲まれ、キーの間には半角の正符号 (+) が自動的に挿入され、各キーは太字/可変幅で表示されるので、翻訳者側で変更する必要はありません。

例: このオプションのホットキーは Shift+Ctrl+Q です。

8.2.4. 矢印キー

現時点では特に規定はありません。

上(下/右/左)矢印キー、上向き(下向き/右向き/左向き)矢印キーなどの表記については、各文書内で統一してください。

8.3. 参照の表記

Red Hat の製品マニュアルの場合には、<citetitle> というタグで囲まれ、二重かぎカッコが自動挿入されるため、翻訳者側で変更する必要はありません。

注記: タグが付けられていない参照の表記については、原則として書名および作品名 (マニュアル名を含む) には二重かぎカッコを使い、これ以外のケース (章見出し、図表のキャプションなど) には一重かぎカッコを使用します。

8.4. 資料タイトル

参照資料 (自社および他社の資料を含む) の日本語版が公開されている場合は、調査した上でそのタイトルを正確に記載してください。英語版のみ公開されている場合には、原則として英語のみで記載します。その場合、日本語の説明は不要です。

日本語の仮訳または説明を付けてしまうと、そのタイトルのドキュメントが実際に存在するものと誤解される可能性があることに注意してください。

注記: 日本語版が近日公開予定の自社ドキュメントについては日本語のタイトルを記載することができません。

第 9 章 特別な注意を要する事項

Red Hat の製品マニュアルの場合には、著作権および商標表示についての記載のある "Legal Notice" (法律上の通知) は原文のまま処理されますが、

以下の事項については誤った記述があると法律上の問題に発展する可能性もあるため、特別な注意を払う必要があります。

ご不明な点がありましたら、trademarks@redhat.com までお問い合わせください。

9.1. 商標

商標については、原文の表記のままにする必要があります。

本文中でや TM、SM というマークが付けられている場合、原則として、原文に付いているマークはそのままにしてください。

例:

Red Hat®

JBoss®

Hibernate®

RHCE®

上記のいずれかを含む製品名にも同様に商標マークが付きます。

Red Hat® Enterprise Linux®

(「Linux」に付いている は、Linux の商標の所有者が Linus Torvald であることを示すものです。)

Red Hat® Enterprise Virtualization

JBoss® Developer Studio

注記: 他社の商標表示についても、原則として原文に従うものとします。

9.2. 製品、サービス名およびブランド名

製品名およびブランド名については、本スタイルガイドのガイドラインによらず、正式名称を使用する必要があります。

9.3. コピーライト表示

コピーライト表示は、原文の表記のままにしてください。

Copyright 2011 Red Hat, Inc. and others.

Copyright © 2014 Red Hat, Inc.

9.4. 会社名

原則として、原文の方針に従います。正式社名に対して略称が使用されている場合は、原文どおりに表記します。

会社名「Red Hat」は、「Red Hat」とそのまま表記します(法律文書で出現する場合を除き、「Inc.」を表記に含めません)。

ただし、特定の法人のみを明確に指す場合は、その法人の正式社名 (Red Hat の日本法人であれば「レッドハット株式会社」) を表記します。

正式社名: Red Hat, Inc.

日本法人名: レッドハット株式会社

第 10 章 参考資料

平成 3 年 6 月 28 日 内閣告示第 2 号「[外来語の表記](#)」

昭和 61 年 7 月 1 日 内閣告示第 1 号「[現代仮名遣い](#)」

平成 22 年 11 月 30 日 内閣告示第 2 号「[常用漢字表](#)」

昭和 48 年 6 月 18 日 内閣告示第 2 号「[送り仮名の付け方](#)」

『[Japanese Style Guide](#)』 (Microsoft)

『日本語スタイルガイド』 (Sun Microsystems)

『[IBM NLS 翻訳ガイド](#)』 (GC88-8079-03)

『[JTF 日本語標準スタイルガイド \(翻訳用\)](#)』 (日本翻訳連盟)

『[外来語 \(カタカナ\) 表記ガイドライン 第 2 版](#)』 (テクニカルコミュニケーター協会、2008 年)

『朝日新聞の用語の手引』 (朝日新聞社)

『日本語の正しい表記と用語の辞典』 (講談社)

『新しい国語表記ハンドブック』 (三省堂)

『日本語表記ルールブック』 (日本エディタースクール)

『記者ハンドブック 第12版 新聞用字用語集』 (共同通信社)

改訂履歴

改訂番号	改訂日	改訂者	内容
1	2014 年 7 月 28 日	Red Hat Localization Services	初版を作成。
2	2014 年 7 月 30 日	Red Hat Localization Services	PDF 版で保存した場合に生じる表や行のレイアウトのずれを調整。 コロンを使用する例の表タイトルを修正。

Copyright © 2014 Red Hat, Inc.